漢字学習マニュアルーその１

　學志館の国語授業では毎回授業の最初に２０分ほどの時間を設けて、『漢字学習ステップ』を教材とした漢字テストを行っています。国語学習は主に二つの面からの学習によって組み立てられています。一つは知識項目。二つ目は論理による文章読解。ここでは、一つ目の知識項目についてご説明致します。

　国語学習における知識項目は、まず、漢字の知識があります。漢字の知識がないと文章を読むときに正確な読解が出来ないばかりか、自分の主張を筋道を辿って説明する場合でも明確な表現が出来なくなります。

　そのため、漢字学習は国語学習の第１の項目とも言うべきものになります。この漢字学習をそれを学ぶ生徒にとって、より能率的で体系的になる教材として最も身近にあるのが『漢字学習ステップ』です。このテキストは漢字検定用に利用され各級を受験することで段階的に漢字学習が進むように構成されています。その教材を通常の塾の国語授業に取り入れることで生徒は漢字を体系的に学習することが出来ます。私たちも以前は通常の漢字学習として「読みと書き取り」の教材を利用し、毎週テストを生徒に課してきました。それにより、生徒は漢字を習慣的に学習し、自然に漢字に慣れ、読み書きが出来るようになりました。しかし、その学習の限界も感じていました。漢字の「読み書き」では漢字学習が機械的になってしまうこと。漢字のそれ以外の書き順・偏や旁・漢字の構成・画数・音訓・ことわざ・四字熟語等の学習はまた別の機会を利用し、学習し直さなければなりませんでした。せっかく、漢字を日常的に学習する機会を作り、その習慣を身に付けてしまうのに「読みと書き」だけでは物足りなく、もったいないと思うようになりました。その疑問に解答を与えてくれたのが漢字検定でした。漢字学習の幅を広げ、漢字を単に「読み書き」だけではなく、漢字の根源的な知識に触れながら、様々な角度から漢字を学習することが出来る教材。それが『漢字検定ステップ』です。「日本漢字能力検定協会」の宣伝をしているわけではありませんが、私たちの国語教育の一環として利用の仕方を意味づけることで様々なメリットを引き出せる教材に変身させることが出来ます。

* 次項「漢字学習運用マニュアル」参照

　国語授業の中に漢字学習を位置づけることで生徒は漢字を習慣的に学習し、次第に漢字を覚えることに負担を感じなくなります。しかも、その過程で身に付けた漢字は単なる「読み書き」ではなく、書き順・偏や旁・漢字の構成・画数・音訓・ことわざ・四字熟語等も自然に学習します。更に、１年に１回漢字検定を受検することで、それまでに学習した漢字知識の定着を図り、達成感も経験することが出来ます。また漢字検定のための対策も行います。その級の過去問に数多く取り組むことから１年間学習した漢字学習を定着させる機会を持つことが出来ます。

　以上の形態が私たちの授業の２０分を占める漢字学習の概要です。次には、その学習概要を具体的に運用する方法について述べていきます。

　漢字学習運用マニュアル

ここでは、通常の国語授業の中に位置づけられる漢字学習の具体的な運用形態についてご説明いたします。箇条書きの形で時間の経過に従う形で以下、列挙していきます。

⑴　**漢字ノート**

　市販されている漢字練習用のノートをその生徒にふさわしいマス目の大きさのものを用意し、一漢字につき、二行各ステップの「漢字表」にある「見出し漢字欄の用例」を順番にすべて書いていきます。漢字の送り仮名は１回ずつ、残ったマス目にはまた、最初から漢字を書き、とにかく二行のマス目一杯に漢字を書きその漢字は終了。以下、「見出し漢字欄」の漢字が終わるまで、「見出しの漢字」をすべて書きます。

　そのように作成した『漢字ノート』を授業前か授業がスタートしてから先生が点検し、間違えて書いている漢字があれば、訂正し書き直しをしてもらいます。漢字練習に慣れていない生徒は漢字を間違えて覚えていることが多く、その都度直しを入れると次第に間違った漢字は書かなくなります。その日書いてきた最後のページに日付と先生のサインを入れてもらいます。＊漢字資料を参照

⑵**「漢字練習ノート」**

　漢検ステップ（５級まで）に付属している小冊子。書き順と漢字をなぞって書ける練習用のマスがあり、ステップごとに生徒は漢字を丁寧になぞり、練習します。なぞった字が二重になっていた場合、チェック（レ点）を入れて書き直しをしてもらいます。

⑶**漢字テスト**

　設問は⑴〜⑷まで。⑴は漢字の読み仮名を書く設問。⑷は平仮名を漢字に直す設問。⑵と⑶はそれ以外の様々な漢字学習。先にも述べた、書き順・偏や旁・漢字の構成・画数・音訓・ことわざ・四字熟語等。

実際に印刷された漢字テストに生徒は書き込んでいきます。その際の注意点は、取り組んでいるテスト用紙以外は伏せておきます。開いておくと、今取り組んでいる書き取りの漢字の解答が読み仮名の問題としてでていることがあるからです。一つの漢字を様々な角度から問題にしているのでそうなります。

(4)**合格基準点**

漢字テストの合格基準点は９割（端数は四捨五入）。例えば、12問は11問、15問は13問正解で合格です。つまり、ミスはそれぞれ1問と2問以内。それ以下は授業終了後に再テストになります。再テストは合格するまで（合格しないと、ずっと居残る。帰宅が遅くなることに問題はないが、30分以上居残りの場合は生徒本人に電話を自宅にかけさせてください。小学生は先生がかけます。）この居残り学習は漢字以外にも大きな成果をもたらします。

(5)**誤字練習**

　再テストはもちろん合格しても間違った漢字があれば、書き取りの漢字は**１０回**。読み仮名の漢字は漢字と読み仮名を**５回**ずつノートに書き練習します。その他は５〜１０回。問題に応じ判断し指示します。書いた漢字は先生が必ずチェックします。生徒はよく間違えた漢字を丁寧にも10回書いてくることがあります。

ハネなども含め厳格に点検してください。

　これらの過程で、私たちは生徒たちに働きかけ、漢字学習の習慣のついていない生徒を少しずつ習慣化の方向へ導いていきます。

（６）採点方法

　クラス生徒数が５人前後の場合は、先生がすべての答案を採点します。　**生徒数が７〜１０人前後の場合、先生の採点能力を超えてしまうため、自己採点とします。**その間、先生はノート点検をし、さらに生徒の採点の様子を見ていてください。そして、書き取りの第四問は生徒が自己採点後に回収し、先生が漢字を確認します。漢字の書き取りは生徒自身が採点すると、間違えていても、自分で気づかずに○にしてしまうことが多々あります。間違えて覚えてきてしまった漢字を訂正してあげることも先生の重要な役割です。

**漢字学習の進め方**

 『漢字練習ノートの作り方』

* 別冊の『漢字練習ノート』（5級までの「漢字学習ステップ」に付いています。）で正しい漢字の形を手に覚えさせましょう。漢字を書くときには書き順と画数を意識しながら書きましょう。
* ノートに「漢検ステップ」の各ステップの見出し漢字を例にあるように漢字ノートに書きましょう。
* 最初の漢字の右余白に音訓の読みを、音読みはカタカナで訓読みは平仮名で書きます。
* 最初の見出し漢字を一文字書いたなら、次は見出しにある熟語を順番に見出し一漢字につき二行ずつ書いていきます。右余白には熟語の読みがなを書きます。一回熟語を書き終えても二行のマス目が残っています。最後のマス目まで、一度書いた熟語を再度順番に書いていきます。その際、漢字の読み仮名は書かなくても良いです。漢字の熟語が途中で終っても結構なので空いたマス目を作らないようにしましょう。

漢字**練習**の進め方

* 『漢字練習ノート』を作り終えたら、「漢検ステップ」の問題を解きます。
* 付属の解答で正当を確認します。
* 塾での漢字テストは「漢検ステップ」の問題をやっていない生徒は受けられません。授業後にステップの問題をやってから、漢字テストを受けます。

再テストにならないようにしっかり準備しましょう。

